

(社)日本原子力学会 標準委員会 原子燃料サイクル専門部会
第26回 リサイクル燃料貯蔵分科会 (F4SC) 議事録

1. 日時 2006年12月1日 (金) 13:30~14:45

2. 場所 (株) オー・シー・エル 大会議室

3. 出席者 (順不同, 敬称略)

(出席委員) 有富 (主査), 山路 (副主査), 丸茂 (幹事), 尾崎, 三枝, 清水, 竹田, 二瓶, 広瀬, 南, 宮田, 山本 (12名)

(代理出席委員) 鍋本 (藤原委員代理) (1名)

(欠席委員) 小佐古, 高橋, 中込, 馬場 (4名)

(常時参加者) 青木, 石川, 伊藤, 岩佐, 海老原, 川上, 丸岡, 横山, 吉村 (9名)

(欠席常時参加者) 奥西, 白倉, 高倉, 中谷, 谷内, 藤本, 藤田, 松永, 松本(務), 山崎 (10名)

(発言希望者) 横江 (1名)

(傍聴者) 糸岡, 杉山, 千葉, 宮川 (4名)

(事務局) 厚

4. 配付資料

F4SC26-1 第25回リサイクル燃料貯蔵分科会議事録(案)

F4SC26-2 標準委員会の活動概況

F4SC26-3 「使用済燃料中間貯蔵施設用金属キャスクの安全設計及び検査基準」改定案

第24回専門部会書面投票時コメント (保留意見) 対応表

F4SC26-4 「使用済燃料中間貯蔵施設用金属キャスクの安全設計及び検査基準」改定案

第24回専門部会書面投票時コメント (その他意見) 対応表

5. 議事

(1) 出席委員の確認

事務局より, 17名の委員中, 代理出席を含め13名の出席があり, 決議に必要な委員数 (12名以上) を満足している旨の報告があった。また, 事務局より, 横江 大 氏 (トランスニュークリア(株)) より発言希望者として, 糸岡 聡 氏 ((独) 原子力安全基盤機構), 杉山 佳弘 氏 (原子力安全・保安院 核燃料管理規制課), 宮川 雅彦 氏 (東京電力(株)), 千葉 匡志 氏 (リサイクル燃料貯蔵(株)) より傍聴者としての届出が事務局を通じて主査に出されている旨, 紹介された。

(2) 前回議事録の確認

F4SC26-1に沿って, 前回議事録の確認が行われ, 事務局より次の誤記 (日時 2006年6月19日→8月7日) があることが報告され, 訂正することで承認された。

(3) 標準委員会の活動概況

F4SC26-2に沿って, 原子燃料サイクル専門部会書面投票結果等について, 報告された。

(4) 保留意見及びその他意見のコメント対応について

F4SC26-3, F4SC26-4に沿って, 書面投票での保留意見及びその他意見に対する対応を審議した。

審議の結果, 保留意見の解説図1 (F4SC26-3No.6) に対するコメントについては, 対応の採否を×→○に変更することでF4SC26-3, F4SC26-4の資料は了承された。

この対応を原子燃料サイクル専門部会に編集上の修正として報告することとした。

主な議論を下記に示す。

a. 輸送容器標準との整合 (F4SC26-3No.2)

- 輸送に関する記述は, 輸送容器標準で詳しく纏められているので, 本標準では輸送容器標準を引用することとし, 本標準から除くことはできないのか。
- 金属キャスクは, 輸送と貯蔵のどちらにも関連しているため, 現時点では, 完全に切り離すことはできないと考える。次回の改定時に輸送容器標準を引用し, 貯蔵に特化した標準とすることも検討する。

b. エポキシ系レジンとの共存 (F4SC26-3No.4)

- エポキシ系レジンとシリコン系レジンの共存雰囲気の影響があるか否かについては, 現在JNESで検討中であるため, 結果が纏まった段階で分科会へ相談することとしたい。
- JNESの検討結果については, 次回の改定時に反映することとし, 現時点では現行のとおりとする。

c. 解説図1 (F4SC26-3No.6)

- 解説図1は、一般の方からも誤解を招かないように、民間の立場から作成されていることが分かる文言に修正した方が良い。
- 適用範囲については、事業者の行為であることが分かるように修文する。

d. 特別な試験条件の記述 (F4SC26-3No.8)

- 一般の試験条件についてのみ記載があり、特別な試験条件についての記載がないことには違和感がある。特別な試験条件については、記載することができないのか。
- 特別な試験における対処方法が決まっていれば記載することも考えられるが、現状では、その時点で影響評価を行い、必要な措置を講ずることとなるので、民間規格に記載することは相応しくないと考える。
- 本標準では記載を変更せずに現行のとおりとする。

6. その他

次回分科会は、標準委員会書面投票の結果を踏まえ、必要に応じ開催することとした。
事務局より、次回の分科会が開催されない場合は、今回の議事録が承認されず公開されない状態で公衆審査に入るため、開催されなければ、公衆審査前に事務局よりメールにて議事録承認の確認をすることが提案され、了承された。

以上